

公務員合格体験談

佐藤 良紀

こんにちは。札幌学院大学法学部法律学科 4 年の佐藤良紀です。今回は私の公務員試験の話を通して、後輩の方々の力に少しでもならばいいなと思い体験談を話させていただきます。

まず、私の合格した職種についてです。私は北海道警察官、北海道職員（警察行政）、函館市職員の試験に合格し、最終的には函館市職員になることにしました。そのほかにも、小樽市職員、江別市職員、渡島町村会職員の試験にエントリーしましたが、小樽市は 1 次試験不合格、江別市と渡島町村会は途中で辞退させていただきました。

次に、私が大学 4 年間でどのように公務員試験の勉強に取り組んできたのか紹介したいと思います。まず、大学 1 年生のとき、私は公務員試験を意識して生活したことはありませんでした。ただ、「キャリアスキル基礎 A」や「キャリアスキル応用 A」の講義の中で数的処理に近い問題に 1 年生のうちから触れることができたことは今思えば大きかったなと感じています。続いて、大学 2 年生には、少しずつ公務員試験を意識し始め、公務員対策特別演習の講義を受ける中で勉強をしました。また、後期からはエクステンションセンターの LEC の講座を受講し少しずつ公務員の勉強をしていきました。続けて 3 年生に移ります。3 年生になっても継続して学内講座と公務員特別演習の講義を受け勉強を進めていきました。3 年前期までは数的処理と文章理解を主に勉強し、後期になってからはこれと並行して自然科学、社会科学、人文科学の勉強も進めていきました。また、3 年生の 1 月でアルバイトを 1 度休ませてもらいそこから直前期は筆記試験の勉強、論文試験の練習、エントリーシートの推敲、面接対策を並行しながら対策をしていきました。さいごに、4 年生での対策になります。4 年生になってからはいよいよ筆記試験、面接試験本番が多くなっていましたので筆記試験対策という意味では、数的処理の復習と参考書を使った時事対策、そして江別市の試験の前は SPI 対策を行いました。ほかの時間はほとんど面接対策やエントリーシートの時間にあてバランスをみて勉強を進めていました。

次に、公務員試験を受けるうえで役に立った大学の講義についてです。まずは前の方でも述べた通り「キャリアスキル基礎 A」と「キャリアスキル応用 A」の講義で数学的な問題に触れることができた点は、あとあとのすごく役に立ったなと感じています。また、もちろん就職活動ですから「職業を知る」や「職業と人生」も自己分析や面接マナー、企業分析において役に立つことが多かったです。さらに、憲法や民法、刑法などの基礎的な法律系の科目も試験問題につながるがあったので役に立ちました。補足して言うと、公務員試験（専門科目なし）ならば大学の講義ほど難しい問題はないと思うので、法学限定ベーシックのような問題が一番近い感じだと思います。1, 2 年生のうちに過去問集を使い法学検定の問題を解いていくことが公務員試験の法学の問題を解くには役に立つと私は思いました。

次に、勉強が辛い時期があったかについて語ろうと思います。私自身勉強が辛い時期はありました。最初につらかったのは勉強する場所がなくなったときです。私は1年生から大学の試験勉強も講義の課題も大学の図書館で勉強することがほとんどでした。一人暮らしの学習机もない家で勉強するのはだらけてしまうし誘惑も多いし、集中を保つことができなかつたからです。しかし、新型コロナウイルス感染拡大によって大学内の警戒レベルが上がる時期になると大学の図書館が封鎖してしまいます。公務員試験の勉強も図書館で行っていた私は、毎日の新聞も図書館で読んでいましたし、友達と毎日朝から図書館に集まって勉強するのが習慣でした。なので、感染者が増大し図書館が封鎖してしまったときは勉強に集中できないのにだんだん試験が近づいてきているという焦りや不安もあってつらかったなと思います。また、やはり勉強しているのに成果があまり出なかつたときもつらかったなと思います。それが如実に出るのが模試です。LECの講座の中で何度か模試を受けていたのですが、結構勉強していたのに点数が伸びていない、むしろ下がっていた時は、本当に公務員になれるのかなど不安でつらかつた記憶があります。このように、辛い時期は何度かありましたが、何とか乗り越えてここまでできました。乗り越え方も少し紹介すると私は気晴らしをして乗り越えたことが多いなと思います。友達とドライブをしたり、バーベキューをしたり、そのなかで就活について励ましあってリフレッシュして乗り越えていました。

次に、大学時代もっと取り組んでおけばよかつたと思うことについてです。私が今思うのは、資格を取っておけばよかつたよかつたなと思います。私自身、エントリーシートを書くときに資格の欄に書くことができたのが普通自動車運転免許だけでした。なので、FPや簿記、TOEICなど何かの資格に挑戦して自分の強みを増やしておけばよかつたなと今は感じています。あとは、もっと早くから勉強を始めればよかつたなとも思います。これは正直いつ始めても思うことではあると思いますが、もっと早く本気で勉強を始めていれば国家公務員や札幌市職員などで使う専門科目も勉強する時間ができ、なにになるかはともあれ選択肢がもっと広がったのかなとは思っています。

次に、私が実際受けた面接の内容についてお教えしたいと思います。私が実際受けた面接は、北海道警察、北海道庁（警察行政）、函館市、江別市の4つの試験です。1つずつ紹介していきます。まず、北海道警察です。北海道警察の面接試験は少し変わっていて、1日に面接官2人による約20分の面接が2回あります。質問内容としては、志望動機、将来像のよくある質問を聞かれましたし、「警察官の不祥事についてどう思うか」、「今の日本の良いところと悪いところはどこか」など警察官独自の質問だなと思うものもありました。特に、警察官になる覚悟について聞かれた記憶があります。続いて、北海道庁（警察行政）の試験についてです。ここの面接は他の面接よりも長く、面接官4人による約30分の面接でした。質問内容は、志望動機やバイト経験などの一般的なものから、「なぜ警察官ではなく警察行政職員なのか」、「なぜほかの公務員や民間企業ではなく警察行政職員なのか」というところを深掘りして聞かれたので、志望動機はかなり突き詰めて考えた方がいいと

思います。続いて、函館市の面接試験についてです。函館市は2次試験と3次試験の別日程で2回面接試験がありました。面接官はどちらも4人で面接時間は短く約7分でした。質問内容は、面接時間が短いこともあって志望動機や大学時代のこと、将来像などオーソドックスなものでした。何度も言うように時間が短いので、そのなかでいかに自分を知ってもらえるか、アピールできるかが大切だと思います。最後に、江別市の面接試験についてです。私は、2次試験の1度しか受けていないのですが3次試験、4次試験も面接があるそうです。2次試験に関してしか言及できませんが、面接官は3人、時間は約10分でした。面接内容は、一般的な質問がほとんどでしたが、最後の質問で「会計年度任用職員に行いてどう思うか」という難しい質問がありました。公務員に関連する法律の改正なども調べておくべきだなと感じました。

次に、面接対策としてやっておいた方が良かったと感じたことについてお話させていただきます。個人的にやってよかったと思うのは他己分析です。自己分析ももちろんしっかり行いましたが、マイナビのアプリでできる「お願い！他己分析」というツールで実施した他己分析がエントリーシートを書く際や面接練習の際にはものすごく役に立ちました。自分の長所短所や普段友人からどう見られているのか知ることができ、自分を客観的にとらえることができるのでオススメです。面接本番に関しては、練習あるのみだと思います。キャリア支援課や学内講座など使えるものは全部使って練習するべきだと思います。

次に、そのほか公務員合格のために大事だと思ったことが私自身の意見ではありますが2つあるのでお話しします。まず1つ目は、友達の存在です。私は同じく公務員試験を受験する友達がいたので、いつも図書館でともに勉強をしていました。お互いしんどい時期には励ましあったり、勉強を教えあったり、息抜きを一緒にしたりと友達の存在は就職活動をするうえでとても大きかったなと思います。2つ目は、模試をうまく活用することです。私は模試を受けたとき、最初の方は結果だけに左右されていて、解き直しはしますが点数だけを気にしてしまっていました。しかし、ある時学内講座の講師の方が「公務員試験は落としてはいけない問題を確実にとる試験だ」ということを言っており、私は今までのやり方では模試をうまく活用できていないのではないかと気づかされました。そこからは、問題ごとの正答率に目を向けるようにしました。全体の正答率が低い問題はできなくても当たり前だ思うようになり、逆に全体の正答率が高い問題なのに自分が間違っていたものは徹底的に復習しました。模試を活用することで実際に試験を受けるライバルを意識しながら勉強することができたと思います。

最後に、就活についてのアドバイスや後輩の方々へのメッセージを述べたいと思います。アドバイスとしてはとにかくあきらめないこと、辛抱強く続けることが大切だと思います。公務員は特に、他の民間企業を受ける同級生や友達よりも最終合格が出るのが遅いです。周りが就活から解放されていく中自分は不安と戦いながら勉強しなければなりません。そのため、しんどくても続ける忍耐力を就活本番までに身につけていった方がいいと思います。また、これは公務員試験に限ったのではないのですが、一般的に多くの人がやらない

ような経験をしておくのも就活においては武器になると思います。私自身でいうと、1年生のときに行った韓国留学と3年生から始めた農家のアルバイトは面接官の人たちもすごく興味を持ってくれてエピソードとして使いやすかったです。皆さんもやりたいと思ったことにはためらわず積極的にチャレンジするべきだと思います。

長々とお話してきましたが、この体験談のなかのなにか一言でもみなさんの就活や大学生活に活かしていただければ嬉しいです。少しでも多くの方が自分の目標を達成し、後悔が少ない就活、大学生活になることを願っています。